

第2学年 図画工作科学学習指導案

図画工作・美術科研究室

題材 見て見て！ すごいよ！

指導観

本題材は生活科で取り組んできた野菜や生き物を育てる経験を通して「すごい！」と思ったことを表し方を考えて絵に表すことがねらいである。

本題材を児童が取り組む中で、次のような価値があると考えられる。

児童が深く関わってきた「ヤゴの飼育」「野菜のお世話」「ひまわりのお世話」を題材に設定することで、児童の活動意欲を高めることができる。

自分の絵に表したい気持ちを表すために最適な材料・用具の特徴や表し方のよさに気づき、自分の表し方を考えることができる。

自分の表したい気持ちに合った表し方で工夫して表すことができる。

活動の途中や作品完成後に作品について交流する場を設け、様々な表現のおもしろさ、一人ひとりの感じ方の違いに気づき、それぞれのよさを認めることができる。

本学級の児童は、1学期に「海で出あったすてきななか間たち」という題材で絵に表す学習をしている。国語「スイミー」と関連させ、自分が実際に海に入ったと仮定し、そこで出会った仲間たちとの触れ合いを自由に想像して、紙版やパス、絵の具を使って絵に表している。

児童は、思いのままに自分が想像したことを絵に表していった。児童は、学習で新しい方法を知ると意欲的にそれを使って表してみようとする。中にはこれまでの既習経験を生かし、パスのステンシルを使って光る魚を表したり、ぼかしを使ってぼんやりとした様子を表したりする子もいた。このように、自分が表したい気持ちに合った表し方を児童が自由に考えて絵に表すことは、児童の表現意欲を高め、いきいきと活動していくことにつながるということがわかった。

そこで本題材では、より多くの材料・用具

の特徴やそれを生かした表し方のよさに気付かせ、様々な表し方から児童が自分の表し方を考え、表現できるようにする。そうすることで児童は、今までよりもつくりだす喜びを味わうことができると考える。

本題材の指導にあたっては、まず、絵に表したい気持ちをはっきりとさせるために、生活科プリントや活動の写真、ビデオを振り返って、自分がすごいと思ったことを思い出させる。それを友達と交流し合うことで、表現意欲を高めさせ、表したい気持ちを明確にさせたい。

また、様々な材料・用具の特徴やその表し方のよさに気付かせるための資料や材料コーナーを用意する。これらには既習経験を振り返ることができるものや、今まで絵を描くときには使ったことのない粘土や綿、セロハンなどの新しい材料・用具と出会い、その特徴を生かした表し方をとらえることができるようなものを用意しておく。児童はこれらをもとに自分で思いのままに試していき、自分の絵に表したい気持ちに一番合う表し方を見つけることができると考える。

また表現活動の途中や作品完成後に、自分たちの作品について交流する場を設ける。そうすることで、児童は様々な表現のよさやおもしろさ、一人ひとりの感じ方の違いに気づき、今後の自分の作品に生かしたり、自分や友達のよさを認めたりすることができると思う。

目標

自分がすごいと思ったことを、絵に表す活動を楽しむことができる。

(造形への関心・意欲・態度)

自分の表したい気持ちに合わせて、材料や用具の特徴を生かして表し方を考えることができる。(発想や構想の能力)

材料や用具の特徴を生かしながら、工夫して絵に表すことができる。(創造的な技能)

作品から感じたことを語り合っ表し方の面白さや材料の感じに気づき、お互いの作品のよさを認めることができる。

(鑑賞の能力)

題材における指導事項・評価規準・指導方法（全9時間）

	学習活動	関 意	発 構	技 能	鑑 賞	具体の評価規準	指導事項	指導方法
表 し た い こ と を 明 確 に す る	1 これまでの自分の活動を振り返り、絵に表したい気持ちを明確にする。 (1時間)					<ul style="list-style-type: none"> ・ すごいと思ったことを絵に表していくことに興味をもつ。(関) ・ これまでの生活科の学習の中で自分がすごいと思ったことを一つ選ぶとしている。(発) 	<p>自分が関わったヤゴ、野菜、ひまわりなどの中から、自分が一番絵に表したいことを決めること。</p> <p>自分が絵に表したい気持ち、そのときの様子をはっきりさせること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科プリントやこれまでの活動の様子がわかる写真やビデオ、野菜の実物などを見せ、そのときの気持ちや様子を思い出せるようにする。
表 し た い こ と を 表 す	2 これまでの学習を振り返りながら様々な材料・用具やそれを生かした表し方のよさについて知り、自分の表し方について考え、表現する。 7時間 本時 (1/7時間)					<ul style="list-style-type: none"> ・ 材料・用具の特徴やその表し方のよさを知り、いろいろ試しながら自分の表したい気持ちに合う表し方を考えることができる。(発・構) ・ 自分の表し方で表すことができる。(技) ・ 画用紙のどの位置に何を描くかを考えながら線描きすることができる。(発)(技) 	<p>自分が表したい気持ちを、どんな材料・用具を使ってどのように表すのか、見通しをもたせること。</p> <p>自分の表したい気持ちに合った材料・用具やその使い方のよさを知り、いろいろ試しながら選ぶこと。</p> <p>自分の気持ちが伝わるようにするために、描く場所を考えたり、描く物の大きさや形を工夫して描くこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学習したことを思い出せるようにするために、児童の作品や資料を提示する。 ・ 材料コーナーを作っておき、児童が試しながら活動できるようにしておく。 ・ 児童がいろいろな材料・用具を試すことができるように、材料や用具を充分にそろえておく。 ・ 自分の気持ちに合った表現ができるようにするために、画用紙の上で十分に指描きをさせた後、線描きに入る。

表 し た い こ と を 表 す					<ul style="list-style-type: none"> ・ 形や色を考えながら表すことができる。 (発)(技) ・ 既習のパスの使い方を思い出したり, 新たな方法を工夫したりしながら彩色することができる。(技) ・ 友達の表し方を見て, そのよさに気付くこと。 (鑑) 	<p>できあがりの線を考えて, 線描きを使う描画材料を選ぶこと。</p> <p>自分が感じとった色で彩色すること。</p> <p>自分の表したい気持ちを表すために一番合う表し方を選んで彩色すること。</p> <p>友達の作品から, どんな気持ちを表すためにどんな工夫をしているかを見つけること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 線描きを使う描画材料としてコンテ, パス, ペン, 鉛筆を用意しておく, 児童の表したい気持ちに合わせて選べるようにしておく。 ・ パスの使い方など, 児童の活動を支えるような資料を掲示しておく。 ・ パスや共用絵の具など, 児童が自分で選べるようにしておく。 <p>見つけたよさを互いに交流し合い, 自分の発想を広げる手助けにしたり, 一人ひとりの感じ方の違いを認め合ったりできるようにする。</p>
鑑 賞 す る	6 互いに作品を鑑賞し合い, よさを見つける。 (1時間)				<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が表したかったことは何か, そのためにどんな工夫をしたのかを進んで話している。(関) ・ 友達の作品を見て表し方の面白さや材料の感じに気付き, 作品のよさを見つけることができる。(鑑) 	<p>自分や友達の様々な表し方を見つけ, 見ることや表現することの楽しさを味わうこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いに絵を見合うことができるような場を設定する。 ・ 鑑賞するときの視点を与え, 友達の作品から材料の感じを味わったり, 表し方の工夫を見つけたりできるようにする。 ・ 様々な表現のよさを伝え合えるような鑑賞カードを用意する。

本時
平成20年10月29日(水) 5校時
図工室

本時目標

材料・用具の特徴やそれを生かした表し方のよさに気付き、自分の表したいことが表れるような材料や用具、表し方をいろいろと工夫しながら表すことができる。

(発想・構想の能力)

授業仮説

材料や用具の特徴やそれを生かした表し方のよさに気付かせ、自分の表したいことを表すための表し方を考えられるような支援を行えば、児童は自分の表したいことに合った表し方を選び、意欲的に絵に表すことができるであろう。

参考作品や既習経験の振り返りから材料・用具の特徴やそれを生かした表し方のよさに気付くようにする。

これまでの既習経験を想起させたり、材料コーナーを活用したりして、どんな材料をどのように使うかをいろいろと試しながら表すことができるようにする。

準備

図工ノート 材料コーナー
既習経験を思い出す資料
材料、用具、使い方を考えられる資料
参考作品
画用紙

本時の指導と評価の考え方

本時は、自分が絵に表したい気持ちを表すために、描画材や表し方を工夫しながら表していく時間である。児童は前時まで、自分が絵に表したい気持ちはどんな気持ちでそれを絵のどこに表すかを明確にしている。

まず初めに、これまでに学習したことがある描画材や表し方を振り返っていき、自分たちも工夫をしながら絵に表してきたことに気付かせる。その後参考作品を紹介し、作者が表したかった気持ちと、その気持ちを表すためにどんな工夫をしているかを考えさせる。こうすること

で、様々な工夫をすることでより自分の気持ちを表せることに気付かせる。

次に、本時のめあてを確認する。図工ノートを見て、表したい気持ちと絵に表す物をしっかりと把握させ、活動の見通しをもてるようにする。そして、画用紙の上に、表したい物をどの場所に、どのくらいの大きさで表すかを指描きして検討つける。

その後、実際に表す活動をする。パス、色鉛筆、ペンなどの描画材から自分の気持ちを表すのに合っていると思うものを選んで描く。試しをしたい児童のために、試しの画用紙を用意しておく。描画材だけでは自分の気持ちに合う表し方ができないと感じた場合は、材料コーナーにある材料を使って、いろいろな表し方を試しながら表していくことができるようにする。初めから自分の気持ちにぴったり合う材料を見つけている児童は、すぐに材料を使って表してよいこととする。

材料コーナーにあるものは自由に使えるようにしておき、いろいろ試しながら児童が発想を膨らませることができるようにする。材料コーナーに児童が使いたい材料がないときは、次回自分で持ってきてもらいようにする。こうすることで、児童が自分の表したい気持ちに一番ぴったり合う表し方を見つけることができる。表し方を選ぶときは、単純に活動のおもしろさだけで選ぶことがないようにするために、常に自分の表したい気持ちと結びつけながら選ぶように助言する。どのように表したらよいか迷っている児童に対しては、児童の表したい気持ちを対話によって聞いたり図工ノートを見たりしながら、それを表すことができる表し方を一緒に考え、また教師と一緒にやってみるなどして児童自身が選べるように支援していく。そのためにも、あらかじめ教師が図工ノートに目を通しておき、児童が絵に表したいことを把握しておく。

最後に、本時の活動を振り返る。自分の表したい気持ちに沿って、どんな工夫したのかを書き発表させる。児童の様々な表し方のよさを認め合い、次時へとつなげたい。

本時学習における指導事項・評価規準・指導方法

	学習活動	具体の評価規準	指導事項	指導方法
導入	<p>1 これまでの自分たちの作品や参考作品を見て，絵に表したい気持ちを表すための工夫について考える。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。 めあて 自分の気持ちを，くふうしてあわらそう。</p> <p>3 前時を振り返り，自分が絵に表したいことを確かめる。</p>	<p>・ めあてを確認し学習の見通しをもっている。（関）</p>	<p>既習経験を想起し，材料・用具の特徴やそれを生かした表し方のよさについて考えること。</p> <p>参考作品から，表したい気持ちは何か，そのためにどんな工夫をしているかを考えること。</p> <p>自分が絵に表したい気持ちと，それを絵のどこに表すかを把握すること。</p> <p>画用紙のどこに，どのくらいの大きさで描くのか見当を付けること。</p>	<p>・ これまでの学習において自分たちも工夫をしてきたことに気付かせるために，児童の作品を用意しておく</p> <p>・ 参考作品を提示し，材料・用具の特徴を生かした表し方のよさに気付かせる。</p> <p>・ 図工ノートを見て，自分が絵に表したい気持ちと，それを絵のどこに表すかを振り返らせる。</p> <p>・ 自分の活動を明確に把握させるために，隣の席の児童と二人組で，自分のめあてを言わせるようにする。</p> <p>・ 指描きをして，描く場所や大きさを考えさせる。</p>
展開	<p>4 自分の表したいことを表す。</p>	<p>・ 図工ノートを見たり提示資料を見ながら，どの表し方が自分のあわらしたいことを一番表すことができるかを考えながら表している。（発・構）</p>	<p>自分の表したいことに合う表し方を考えること。</p> <p>・ 紙を貼る ・ 粘土をつける ・ 切込みを入れる ・ パスで描く など</p>	<p>・ どんな材料を使ってどんな使い方をするのかを児童が考えることができるようにするために資料を掲示しておく。</p>

				<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が納得のいく表現になるまで、いろいろと表し方を試してよいことを伝える。 ・ 選んだ表し方でつまづきを感じている児童に対しては個別に支援する。 ・ 新たに使いたい材料を思いついた児童に対しては、次回持ってきて試してよいこととする。
終末	4．本時学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の気持ちを表すために、どんな表し方の工夫をしたのかをのを書いている。 (発・構) 	自分の表したい気持ちに合わせてどんな表し方の工夫をしたか、なぜ、その方法を選んだのかを書くこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動をふり返らせ、次時に向けて見通しをもたせる。